
京都府議会

危機管理・建設交通常任委員会

活動報告書

令和4年5月18日



| | |
|------|-------|
| 委員長 | 藤山裕紀子 |
| 副委員長 | 宮下友紀子 |
| 副委員長 | 堤淳太 |
| 委員 | 前波健史 |
| 委員 | 井上重典 |
| 委員 | 兔本和久 |
| 委員 | 田島祥充 |
| 委員 | 浜田良之 |
| 委員 | 水谷修 |
| 委員 | 平井齐己 |
| 委員 | 村井弘 |
| 委員 | 上倉淑敬 |

目次 京都府議会 危機管理・建設交通常任委員会 活動報告書

| | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 委員会の審議等の状況（概要） | 1 |
| 2 | 委員会活動状況 | 2 |
| 3 | 重要課題調査のための委員会 | 7 |
| 4 | 付託議案及び審査依頼議案結果 | 9 |
| 5 | 付託請願審査結果 | 11 |
| 6 | 管内調査 | 12 |
| 7 | 委員会活動のまとめ | 18 |

1 委員会の審議等の状況（概要）

本委員会は、危機管理部及び建設交通部の所管並びにそれに関連する事項を所管している。

主な各部局の所管事項は次表のとおりである。

| 部局名 | 主な所管事項 |
|-------|---|
| 危機管理部 | 危機管理対応、消防・防災、原子力防災対策 |
| 建設交通部 | 道路・河川・港湾・下水道等基盤整備、総合的交通体系、都市計画、住宅、建築、土地対策 |

京都府議会の各常任委員会では、年4回の定例会において、条例案などの審査を行うほか、議会の閉会中に委員会を開催して、府政の重要課題について、テーマを設けて集中的に審議したり、京都府内や他府県に赴いて調査を実施している。

今期の危機管理・建設交通常任委員会の閉会中の調査活動では、さまざまなテーマを選定し、参考人制度を活用して、専門的知見を有する方の意見を聴取し、テーマに関する議論を掘り下げた。また、理事者から新型コロナウイルス感染症に係る府の対応状況を聴取し、意見交換を行った。

また、管内調査では、京都府の施策が実施されている現場等を訪問し、府の事業担当者や関連事業者の説明を聴取するとともに、現地視察を行った。

2 委員会活動状況

| 時期 | 活動 | 議題・テーマ |
|---------------|------------------------------------|---|
| 5 月 | | |
| R 3 . 5 . 1 9 | 委 員 会 | <ul style="list-style-type: none"> ■委員長の選任 ■副委員長の選任 ■副委員長の順位 |
| 6 月 | | |
| R 3 . 6 . 4 | 正副委員長会 | <ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■臨時会中の委員会及び分科会運営 |
| R 3 . 6 . 4 | 委員会及び 予算特別委員会 分科会 (6臨) | <ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■所管部局の事務事業概要等 ■所管事項の質問（新型コロナウイルス感染症に関する こと） ■審査依頼議案（説明聴取・質疑・適否確認） ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 6 . 2 4 | 正副委員長会 | ■分科会運営 |
| R 3 . 6 . 2 4 | 予算特別委員会 分科会 (6定先行審議) | ■審査依頼議案（説明聴取・質疑・適否確認） |
| R 3 . 6 . 2 5 | 正副委員長会 | <ul style="list-style-type: none"> ■委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 6 . 2 9 | 委員会及び 予算特別委員会 分科会 (6定1日目) | <ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 (危機管理部) <ul style="list-style-type: none"> ・京都府消防体制の整備推進計画の改定について (建設交通部) ・淀川水系河川整備計画（変更案）に対する京都府知 事の意見について ・京都府住生活基本計画の改定について ・包括外部監査結果に基づく措置状況について ■付託議案及び審査依頼議案（質疑終結まで） |
| R 3 . 6 . 3 0 | 委員会及び 予算特別委員会 分科会 (6定2日目) | <ul style="list-style-type: none"> ■付託議案（討論・採決） ■審査依頼議案（適否確認） ■所管事項の質問（建設交通部、商工労働観光部・建設交 通部） |
| 7 月 | | |
| R 3 . 7 . 1 | 委 員 会 (6定3日目) | <ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の質問（危機管理監、危機管理部） ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 7 . 1 6 | 正副委員長会 | ■臨時会中の委員会運営 |

| | | |
|---------------|--|--|
| R 3 . 7 . 1 6 | 委 員 会 (7 臨) | ■所管事項の質問 (新型コロナウイルス感染症に関する こと) |
| 8 月 | | |
| R 3 . 8 . 6 | 正副委員長会 | ■臨時会中の委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 8 . 6 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (8 臨 ①) | ■所管事項の質問 (新型コロナウイルス感染症に関する こと) ■審査依頼議案 (説明聴取・質疑・適否確認) ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 8 . 2 7 | 正副委員長会 | ■臨時会中の委員会及び分科会運営 |
| R 3 . 8 . 2 7 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (8 臨 ②) | ■所管事項の質問 (新型コロナウイルス感染症に関する こと) ■審査依頼議案 (説明聴取・質疑・適否確認) |
| R 3 . 8 . 2 9 | 管内調査 (中 止) | ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止 ○令和3年度京都府総合防災訓練 (行催事等委員会調査) |
| 9 月 | | |
| R 2 . 9 . 2 7 | 正副委員長会 | ■定例会中の委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 9 . 2 9 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (9 定 1 日 目) | ■報告事項の聴取 (危機管理部) ・関西防災・減災プラン (総則編、地震・津波災害対策 編、風水害対策編、原子力災害対策編) の改訂 (中間 案) について (建設交通部、商工労働観光部・建設交通部) ・京都府住生活基本計画の改定及び京都府賃貸住宅供給 促進計画の策定について ・地域公共交通網形成計画の改定について ・都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例の 一部改正について ・長期優良住宅の普及の促進に関する法律の一部改正に ついて ・府民利用施設のあり方検証結果報告について ・建設交通部所管施設における指定管理者の選定につ いて ■審査依頼議案 (質疑終結まで) |
| R 3 . 9 . 3 0 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (9 定 2 日 目) | ■審査依頼議案 (適否確認) ■所管事項の質問 (建設交通部、商工労働観光部・建設交 通部) |
| 10 月 | | |
| R 3 . 1 0 . 1 | 委 員 会 (9 定 3 日 目) | ■所管事項の質問 (危機管理監、危機管理部) ■閉会中の継続審査及び調査 |

| | | |
|-----------------|--|---|
| | | ■今後の委員会運営 |
| 11 月 | | |
| R 3 . 1 1 . 1 1 | 正副委員長会 | ■分科会運営 |
| R 3 . 1 1 . 1 1 | 予算特別委員会 分 科 会 (9定追加補正) | ■審査依頼議案（説明聴取・質疑・適否確認） |
| R 3 . 1 1 . 2 5 | 正副委員長会 | ■本日の委員運営 |
| R 3 . 1 1 . 2 5 | 委 員 会 (閉 会 中) | ■所管事項の調査 ・「早期洪水予測に関する最近の動向について」 参考人：京都大学防災研究所 准教授 佐山 敬 氏 |
| R 3 . 1 1 . 2 6 | 管 外 調 査 | ○北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進大会（行催事等委員会調査） |
| R 3 . 1 1 . 3 0 | 正副委員長会 | ■分科会運営 |
| R 3 . 1 1 . 3 0 | 予算特別委員会 分 科 会 (11定先行審議) | ■審査依頼議案（説明聴取・質疑・適否確認） |
| 12 月 | | |
| R 3 . 1 2 . 9 | 正副委員長会 | ■委員会運営 ■今後の委員会運営 |
| R 3 . 1 2 . 1 3 | 委 員 会 (11定1日目) | ■報告事項の聴取 (建設交通部) ・地域公共交通網形成計画の改定（中間案）について ・建設交通部所管施設における指定管理者候補団体について ■付託議案(質疑終結まで) |
| R 3 . 1 2 . 1 4 | 委 員 会 (11定2日目) | ■付託議案（討論・採決） ■所管事項の質問（建設交通部、商工労働観光部・建設交通部） |
| R 3 . 1 2 . 1 5 | 委 員 会 (11定3日目) | ■所管事項の質問（危機管理監、危機管理部） ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営 |
| 1 月 | | |
| R 4 . 1 . 1 9 | 正副委員長会 | ■本日の委員会運営 |
| R 4 . 1 . 1 9 | 委 員 会 (閉 会 中) | ■所管事項の調査 ・「地域防災力のさらなる向上に向けた取組について」 参考人：関西大学社会安全学部 教授 永田 尚三 氏 |
| 2 月 | | |
| R 4 . 2 . 4 | 正副委員長会 | ■委員会及び分科会運営 |
| R 4 . 2 . 4 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (2定先行審議①) | ■審査依頼議案（質疑終結まで） ■審査依頼議案（適否確認） ■所管事項の質問（新型コロナウイルス感染症に関する こと） |

| | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| R 4 . 2 . 1 4 | 予算特別委員会 分 科 会 (2定先行審議②) | ■審査依頼議案 (適否確認) |
| R 4 . 2 . 2 0 | 管内調査 (中止) | ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止 ○第32回京都府消防大会 (行催事等委員会調査) |
| R 4 . 2 . 2 3 | 管内調査 | ○一般府道郷ノ口余部線 宇津根橋 開通式 (行催事等委員会調査) |
| R 4 . 2 . 2 8 | 正副委員長会 | ■委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営 |
| R 4 . 2 . 2 8 | 予算特別委員会 分 科 会 (2定先行審議②) | ■審査依頼議案 (説明聴取・質疑・適否確認) |
| 3 月 | | |
| R 4 . 3 . 6 | 管内調査 (延期) | ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため延期 ○京都舞鶴港国際物流ターミナル整備事業起工式典 (行催事等委員会調査) |
| R 4 . 3 . 8 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (2定1日目) | ■報告事項の聴取 (建設交通部) ・地域公共交通計画の策定 (最終案) について ・京都府住生活基本計画の改定 (最終案) 及び京都府賃貸住宅供給促進計画の策定 (最終案) について ・府営住宅向日台団地建替事業の実施方針等について ■付託議案及び審査依頼議案 (質疑終結まで) |
| R 4 . 3 . 9 | 委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (2定2日目) | ■付託議案 (討論・採決) ■審査依頼議案 (適否確認) ■所管事項の質問 (建設交通部、商工労働観光部・建設交通部) |
| R 4 . 3 . 1 0 | 委 員 会 (2定3日目) | ■所管事項の質問 (危機管理監、危機管理部) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営 |
| R 4 . 3 . 2 1 | 管内調査 | ○いろは呑龍トンネル 南幹線・呑龍ポンプ場 供用開始記念式典 (行催事等委員会調査) |
| 4 月 | | |
| R 4 . 4 . 2 1 ～ R 4 . 4 . 2 2 | 管内調査 | ■所管事項の調査 ○京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 インフラ先端技術産学共同講座 ・次世代インフラシステム構築のための取組について ・施設視察 ○新名神高速道路〔於：文化パーク城陽〕 ・新名神高速道路の整備状況について ・現地視察 (城陽インターチェンジ) ○京都府立消防学校 ・コロナ禍における消防学校の教育・訓練の取組状況について ・施設視察 |

| | | |
|---------------|------------------|---|
| | | ○舞鶴工業高等専門学校 社会基盤メンテナンス教育センター ・インフラメンテナンス人材育成の取組について ・施設視察 ○山陰近畿自動車道 [於：宮津シーサイドマート ミップル] ・山陰近畿自動車道の進捗状況について ・現地視察（大宮峰山道路） |
| 5 月 | | |
| R 4 . 5 . 1 3 | 正副委員長会 | ■臨時会中の委員会運営 |
| R 4 . 5 . 1 6 | 委 員 会 (5 臨) | ■所管事項の質問（新型コロナウイルス感染症に関するこ と） |

3 重要課題調査のための委員会

(1) 早期洪水予測に関する最近の動向について

(令和3年11月25日(木)開催)

■開催概要

近年、豪雨災害が頻発・激甚化しており、令和3年も7月、8月の大雨により、東海や中国、九州地方を中心に河川の氾濫、堤防の決壊、土砂災害等が発生している。

京都府においても、豪雨災害に備えて、住民が早期に安全な避難行動をとる必要があるが、中小河川では短時間で水位上昇が起こり、避難に要する時間を確保することが難しいという課題がある。

今回の委員会では、参考人及び理事者から、梅雨や台風等による豪雨時において、早期に河川水位・浸水区域を予測する技術に関する動向について説明を聴取し、意見交換を行った。

各委員から出された意見・見解等について、今後の府政の推進に当たり十分留意し、府民のため、なお一層の創意工夫をするよう、理事者に対し要望された。

■参考人

京都大学防災研究所 准教授 佐山 敬洋 氏

■出席理事者

【建設交通部】

部長、副部長（監理課長事務取扱）、技監（土木担当）、砂防課長

■主な質問事項

- ・水害被害を減らすための住民への情報伝達について
- ・予測可能な先の時間について
- ・ハザードマップの見直し状況について
- ・洪水予測に反映される条件等について など

(2) 地域防災力のさらなる向上に向けた取組について

(令和4年1月19日(水)開催)

■開催概要

災害が激甚化する中、地域の人々の組織的な防災活動により、地域防災力の向上を図ることが求められている。

本府においても、市町村等と連携し、消防団員の確保や活動活性化の支援に取り組んでいるところである。

今回の委員会では、理事者から本府の地域防災力向上について説明を聴取するとともに、参考人からコロナ禍も踏まえ、地域防災力をさらに向上させるための取組について説明を聴取し、意見交換を行った。

各委員から出された意見・見解等について、今後の府政の推進に当たり十分留意し、府民のため、なお一層の創意工夫をするよう、理事者に対し要望された。

■参考人

関西大学社会安全学部 教授 永田 尚三 氏

■出席理事者

【危機管理部】

部長、企画調整理事兼副部長、危機管理総務課長、災害対策課長

■主な質問事項

- ・消防団を活性化させるための方法について
- ・消防団の団員不足について
- ・大学における消防に関する教育について
- ・常備消防と消防団の関係について など

4 付託議案及び審査依頼議案結果

「◎」は全会一致、「○」は賛成多数、「×」は否決、「会派名=少」は少数意見留保、「*」は修正案提出

(委員会)

| | 議案番号 | 件名 | 審査結果 | 備考 |
|--------|------|---|------|----|
| 6月定例会 | 8 | 下水道法に基づく流域下水道の構造の基準等に関する条例及び災害からの安全な京都づくり条例一部改正の件 | ◎ | |
| | 9 | 京都府府営住宅条例一部改正の件 | ◎ | |
| | 11 | 府道宇治木屋線道路新設改良工事請負契約締結の件 | ◎ | |
| | 12 | 府道小倉西舞鶴線道路新設改良工事請負契約変更の件 | ◎ | |
| 11月定例会 | 5 | 京都府手数料徴収条例一部改正の件 | ◎ | |
| | 6 | 都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例一部改正の件 | ◎ | |
| | 8 | 府道山城総合運動公園城陽線橋りょう新設改良工事委託契約締結の件 | ◎ | |
| 2月定例会 | 53 | 指定管理者指定の件(伏見港公園) | ◎ | |
| | 54 | 指定管理者指定の件(山城総合運動公園) | ◎ | |
| | 55 | 指定管理者指定の件(木津川運動公園) | ◎ | |
| | 56 | 指定管理者指定の件(関西文化学術研究都市記念公園) | ◎ | |
| | 57 | 指定管理者指定の件(丹波自然運動公園) | ◎ | |
| | 58 | 指定管理者指定の件(府民スポーツ広場) | ◎ | |
| | 59 | 指定管理者指定の件(洛西浄化センター公園) | ◎ | |
| | 60 | 指定管理者指定の件(公営住宅つつじが丘団地等) | ◎ | |
| | 91 | 府道郷ノ口余部線大規模更新工事請負契約変更の件 | ◎ | |

(分科会)

| | 議案番号 | 件名 | 詳細審査結果 |
|--------|------|------------------------------|--------|
| 6月臨時会 | 1 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第6号)中、所管事項 | 適当 |
| 6月定例会 | 1 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第8号)中、所管事項 | 適当 |
| | 14 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第8号)中、所管事項 | 適当 |
| 8月臨時会 | 1 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第11号)中、所管事項 | 適当 |
| 8月臨時会② | 1 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第12号)中、所管事項 | 適当 |
| 9月定例会 | 1 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第14号)、所管事項 | 適当 |
| | 2 | 令和3年度京都府港湾事業特別会計補正予算(第1号) | 適当 |
| | 18 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第16号)、所管事項 | 適当 |
| 11月定例会 | 16 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第18号)、所管事項 | 適当 |
| 2月定例会 | 63 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第23号)中、所管事項 | 適当 |
| | 65 | 令和3年度京都府流域下水道事業会計補正予算(第1号) | 適当 |
| | 66 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第24号)中、所管事項 | 適当 |
| | 67 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第26号)、所管事項 | 適当 |
| | 74 | 令和3年度京都府港湾事業特別会計補正予算(第2号) | 適当 |
| | 81 | 令和3年度京都府流域下水道事業会計補正予算(第2号) | 適当 |
| | 87 | 都市計画事業に関する市町村負担金を定める件 | 適当 |
| | 88 | 急傾斜地崩壊対策事業等に関する市町村負担金を定める件 | 適当 |
| | 89 | 流域下水道事業に関する市町村負担金を定める件 | 適当 |
| | 90 | 港湾修築事業に関する市町村負担金を定める件 | 適当 |
| | 92 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第26号)中、所管事項 | 適当 |
| | 93 | 令和3年度京都府一般会計補正予算(第27号)中、所管事項 | 適当 |

5 付託請願審査結果

令和3年6月定例会から令和4年2月定例会の間に、危機管理・建設交通常任委員会に付託された請願はなかった。

6 管内調査

(令和4年4月21日(木)～4月22日(金))

1 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座(京都市西京区)

【調査事項】

次世代インフラシステム構築のための取組について

【調査目的】

インフラ先端技術産学共同講座における道路インフラを中心とした革新的な検査技術等がどのように企業や自治体で活用されているかを調査し、府の施策の参考とする。

【説明者】

京都大学大学院工学研究科 特定教授 塩谷 智基

【調査内容】

同大学は、高度経済成長期に建設され老朽化しつつあるインフラの維持管理技術の社会実装を目的に、8年前に同講座を立ち上げた。また、令和2年には、インフラ先端技術コンソーシアムを設立し、様々な機関や企業と連携し、最新の情報交換や幅広い分野での共同研究を実施することで、先端技術の開発を進めている。

インフラの法定点検は、橋りょうの場合、5年に1度、目視検査が義務づけられているが、外観目視では内部損傷を検知することは困難なため、最新技術を活用してコンクリート内部の状況を把握し可視化するなどの研究が行われている。例えば、高速道路の床板の損傷評価では、内部ひび割れの摩擦音を検知するセンサを設置し、内部の物性分布を調べるAEトモグラフィによる検査手法の研究や、内部損傷状況（非破壊検査（弾性波トモグラフィ）データ）と外観データ（ドローン動画による点群データ作成）を統合することで、構造物の劣化・損傷状況の把握を容易にするとともに、正確な健全性評価を可能とする技術の研究が進められている。

これらの最新の研究開発技術を構造物の新設や既存構造物の維持管理に導入することで、長期的なコストの削減や環境負荷の軽減につなげていくとのことだった。

【主な質問事項】

- ・コンクリートの劣化について
- ・インフラに対する維持管理にかかる予算規模について など



調査事項を聴取



施設を視察

2 新名神高速道路〔於：文化パーク城陽〕（城陽市）

【調査事項】

新名神高速道路の整備状況について

【調査目的】

国土軸のダブルネットワークとして関西圏、中部圏、首都圏を結ぶ新名神高速道路の京都府における現在の整備状況について調査し、城陽 I C を視察する。

【説明者】

西日本高速道路株式会社 新名神京都事務所 所長 松本 崇
西日本高速道路株式会社 新名神京都事務所 工務課長 大國 守道

【調査内容】

新名神高速道路は、平成29年に城陽～八幡京田辺間が開通し、京丹後市から木津川市までが高速道路で結ばれ移動時間が大幅に短縮された。南部地域では企業立地も進み、府総合計画においても「新名神を活かす『高次人流・物流』構想」が掲げられ、城陽スマート I C（仮称）付近では、西日本最大級のアウトレットモールの整備を進め、宇治田原 I C（仮称）付近では、基幹物流施設の整備計画が公表された。

大津～城陽間、八幡～高槻間は、一時期事業が凍結していた期間もあったが平成24年に事業許可され、事業実施しており、令和2年には、6車線化が事業許可された。6車線での設計が間に合う区間は6車線で進めるものの、すでに4車線で設計を進めていた区間については、まず4車線で完成させていくとのことだった。

また、令和3年12月に、大津～城陽間の開通予定が令和5年度から6年度に、令和4年2月に、八幡～高槻間の開通予定が令和5年度から令和9年度にそれぞれ見直しが発表されたところである。

大津・城陽間の京都府域12.9kmのうち、土工が54%、橋梁31%、トンネル15%の比率となっている。竣工済11件、工事中19件、未着手区間も今年度の終わり頃にはほぼ全線で着手することになり、また、新名神開通にあわせて、関連するアクセス道路整備事業等も進められているとのことだった。

【主な質問事項】

- ・ 完成時期について
- ・ 送り出し架設について
- ・ 地盤について など



調査事項を聴取



現地を視察

3 京都府立消防学校（京都市南区）

【調査事項】

コロナ禍における消防学校の教育・訓練の取組状況について

【調査目的】

消防団員、消防職員の教育訓練を行う消防学校において、コロナ禍の中でのこれまでの取組状況や今後の対応等を調査する。

【説明者】

府立消防学校 校長 田中 寿直

【調査内容】

同校は、京都市消防学校との共同利用施設と八幡市の南部訓練拠点との2箇所、また、北部訓練拠点として福知山市総合防災センターを一時的に借用し、府内消防職員及び消防団員等に対する教育訓練を実施している。

初任教育では府内の各消防本部に新規採用された消防職員に対し基礎的な訓練を全寮制で実施しているところだが、令和3年4月にコロナ感染が判明し、判明直後は、あらかじめ必要な教材を配布し自宅学習に切り替え、その後オンラインで座学中心の教育を開始、7月から対面教育を再開、8月の終了までは、一部の期間を除いて外泊制限を設けるなど、当初計画を見直し、カリキュラム等に工夫を凝らし編成することにより、その後感染者を出すことなく、所定の課程を終了することができた。

専科教育では救急科の訓練において、令和4年1月にコロナ感染が判明したため、一旦自宅学習に切り替えた後、オンライン教育を実施、その後対面教育を再開したが、さらにその後、新たな感染者が判明したことから、再度オンライン教育を再開し、最後までこの方式で実施、所属消防本部で実習を行うことで、終了することができた。

令和4年度からは、初任教育と救急科をあわせた総合教育を実施することにより、救急対応の即戦力となる消防士を養成するとともに、専科教育の実施時期を分散化することで感染症対策の強化を図っているとのことだった。

【主な質問事項】

- ・ 幹部教育について
- ・ 消防団員に対する訓練内容について
- ・ オンラインによる実技訓練について など



調査事項を聴取



施設を視察

4 舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センター（舞鶴市）

【調査事項】

インフラメンテナンス人材育成の取組について

【調査目的】

インフラの維持管理・修繕等に対応できる人材育成を行う機関として、舞鶴工業高等専門学校に開設された社会基盤メンテナンス教育センターにおいて、どのような教育や取組等が行われているかを調査し、府の施策の参考とする。

【説明者】

舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也

舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 准教授 毛利 聡

【調査内容】

社会基盤メンテナンス教育センター（i M e c）は、高度経済成長期に建設されたインフラの老朽化が全国的な課題となる中で、維持管理の重要性や必要性から、維持管理に特化した人材育成を目的として平成26年に開設された実践的教育施設である。

全国の産官学機関と連携し、京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会では、地域のニーズや課題を抽出し、教育プログラムの実証・検証等を行い、社会基盤メンテナンス技術レベル検討委員会では、教育プログラムの技術審査や技術資格認定等を実施している。

インフラメンテナンス技術者育成のため、eラーニングと講習会を組み合わせたアクティブラーニングなどの教育プログラムを開発するとともに、橋梁診断技術者や橋梁点検技術者などの技術資格を創設し、国土交通省登録資格として登録されている。

また、地方における建設技術者の技術レベル向上を目指し実務家教員の育成やリカレント教育の地域拠点を全国に展開するとともに市民協働型インフラ管理体制の構築に向けた研究、建設系高専生へのキャリア教育等にも取り組んでいるとのことだった。

【主な質問事項】

- ・インフラの維持管理の重要性について
- ・メンテナンスの人材向上について など



調査事項を聴取



施設を視察

5 山陰近畿自動車道 [於：宮津シーサイドマート ミップル] (宮津市、京丹後市)

【調査事項】

山陰近畿自動車道の進捗状況について

【調査目的】

広域的なネットワークを形成するために整備されている山陰近畿自動車道について京都府における現在の整備状況について調査する。

【説明者】

国土交通省福知山河川国道事務所 所長 犬丸 潤

京都府丹後土木事務所 所長 米田 均

京都府建設交通部道路計画課 参事 (高速道路担当) 村田 利幸

【調査内容】

山陰近畿自動車道は、高規格幹線道路と一体となって地域の連携や交流、広域交流拠点との連結などの役割を担っており、高規格道路のミッシングリンクとなっている鳥取東部・但馬・京都北部地域を結び日本海国土軸の一翼を担う延長 120km の地域高規格道路である。

現在、大宮峰山道路は交通混雑の緩和や交通安全性の向上を目的に、平成 27 年に事業化され、延長 5.0 kmのうち事業進捗率は約 29%、用地取得率は約 71%で、現在、5つの橋脚が完成したところである。

また、国道 312 号 (峰山大宮インター線) についても、平成 29 年から事業に着手し、用地買収、埋蔵文化財調査を実施している。

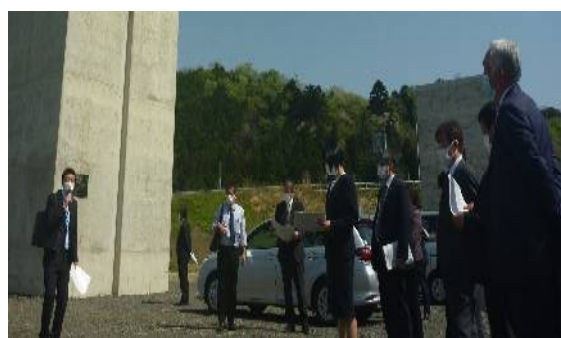
整備により、府北部地域から、府立医科大学附属北部医療センターへの救急搬送時間短縮や搬送患者の負担軽減、府北部地域のへのアクセス強化や周遊性の向上により観光振興も期待されるとのことだった。

【主な質問事項】

- ・橋脚の施工金額について
- ・コンクリート橋脚の強度、品質、仕上がりの違いについて など



調査事項を聴取



現地を視察

危機管理・建設交通常任委員会 管内調査日程

令和4年

| 月日 | 発着地 | 発時刻 | 着時刻 | 摘 要 |
|--------------------------|--|---------------|-------|--|
| 4 月 21 日 (木) | 議会棟 9:15 集合、 9:20 出発 | | | |
| | 議会棟 | 9:20 | | 【借上バス】 |
| | 京都大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻 インフラ先端技術産学共同講座 (京都市西京区) | 11:30 | 10:00 | ◆次世代インフラシステム構築のための取組について ・概要説明 ・施設視察 |
| | (昼食) | (12:10~13:00) | | (宇治市内) |
| | 新名神高速道路 〔於：文化パーク城陽〕 (城陽市) | 14:40 | 13:20 | ◆新名神高速道路の整備状況について ・概要説明 ・現地視察 (城陽インターチェンジ) |
| | 京都府立消防学校 (京都市南区) | 16:20 | 15:20 | ◆コロナ禍における消防学校の教育・訓練の取組状況について ・概要説明 ・施設視察 |
| | 宿舎 | | 18:20 | (舞鶴市内) |
| 4 月 22 日 (金) | 宿舎 | 9:50 | | 【借上バス】 |
| | 舞鶴工業高等専門学校 社会基盤メンテナンス教育センター (舞鶴市) | 11:30 | 10:00 | ◆インフラメンテナンス人材育成の取組について ・概要説明 ・施設視察 |
| | (昼食) | (12:30~13:20) | | (宮津市内) |
| | 山陰近畿自動車道 〔於：宮津シーサイドマート ミップル〕 (宮津市、京丹後市) | 14:55 | 13:25 | ◆山陰近畿自動車道の進捗状況について ・概要説明 ・現地視察 (大宮峰山道路) |
| | 議会棟 | | 17:30 | 【解散】 |

7 委員会活動のまとめ

5月臨時会の委員会（令和4年5月16日開催）において、新型コロナウイルス感染症対策として、1年間の「委員会活動のまとめ」の議事が設けられなかったため、希望する委員から書面により提出がされた。

以下、その内容を委員名簿順に記載した。

○藤山委員長

一昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の中での開催のため、様々に配慮しながらの委員会運営で御不便もおかけしたと存じますが、昨年5月から本日に至るまでの間、宮下、堤両副委員長をはじめ、委員の皆様方には、委員会審査や管内調査、閉会中の常任委員会開催など、円滑な運営に格段の御協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

また理事者の皆様におかれましては、この間、新型コロナウイルス感染症の対応をはじめとして、各般行政に大変な御尽力を賜りありがとうございました。

議会事務局の皆様にも細やかにサポートをいただき委員長としての職務を滞りなく終えることができました。心から感謝申し上げます。

この1年間の活動のうち印象深かったものは、1月の常任委員会でお招きした関西大学社会安全学部の永田尚三教授による「地域防災力のさらなる向上に向けた取組について」をテーマとした調査でした。ドイツでは子どもたちが学校帰りに消防団詰め所に立ち寄ってそこで団員に勉強を教わるなど、子どもの頃から消防団と関わる機会が多く、子どもたちが成長して自然に入団するというのを伺いました。また消防団員確保と今後の在り方について、消防団と団員の専門性強化の必要性を強調しておられました。そういったことから、現在「消防団応援の店」等の取組を行われていますが、インセンティブによる団員確保よりも、専門性とやりがいを重視した活動によって地域の中で尊敬される消防団を目指す取組を進めることが確保に向けて効果があるのではないかと感じました。

ようやく実施できた管内調査では、府内インフラの整備状況の調査とともに、特に現在大きな課題となっている建設分野での人材育成と人手不足対策に焦点を置いた調査先の選定をさせていただきました。京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座では、先端技術を活用したインフラの整備や維持管理の研究について伺いました。人手不足を補うとともに、しっかりと維持管理をすることで100年もたせることも可能ということをお話しされていました。また舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センターではインフラメンテナンス人材育成の取組について伺いましたが、ここでも維持管理の重要性、そのためのリカレント教育、eラーニングを活用した人材育成が行われているとのことでした。人材不足は全ての分野で問題になっていますが、国土強靱化のための老朽化対策は急務だと思っています。産官学の連携により50年後、100年後も安心して住み続けられる京都府づくりにこれからも取り組んで

いただきたいと思ひます。

1年間を通して学びましたこと、委員長としての貴重な経験は、今後の活動に生かしてさらなる京都府政の推進と府民生活の向上の為に頑張つてまいりたいと思ひます。1年間ありがとうございました。

○宮下副委員長

昨年の5月に副委員長に選任いただきましてからこの間、藤山委員長、堤副委員長におかれましては、正副委員長会議において委員会運営への御指導をくださいましたこと、誠にありがとうございました。また、委員の皆様方には委員会審査や管内調査など委員会所管事項に対しての御熱心な御意見、御要望などの御審議を通して府域の諸課題、議員としての役割を学ばせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

コロナ禍により参考人招集や管内外調査に制限はありましたが、令和4年1月に関西大学社会安全学部 永田 尚三教授の「地域防災力のさらなる向上に向けた取組について」のお話をお聞きし、防災には地域の力が重要であると再認識いたしました。コロナ禍も踏まえ、地域の防災活動、地域防災力の向上、消防団員の確保や活動活性化の支援に生かしてまいりたいと思ひます。

この1年、危機管理・建設交通常任委員会で勉強させていただきましたことをしっかり京都府政の推進に生かせるよう努力してまいります。

理事者並びに事務局の皆様には長引く新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じての委員会開催に御尽力いただきましたこと心から御礼申し上げますとともに、委員間討議での審議及び施策の成果の検証を行っていただきさらなる府政推進に生かしていただくことをお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方におかれましては、コロナウイルス感染症の対応や、健康に御留意いただき、今後ますます御活躍されますことを御祈念申し上げまして私のまゝとさせていただきます。1年間ありがとうございました。

○堤副委員長

京都府下では緊急事態宣言は解除されたとはいうものの、いまだに新型コロナウイルス感染症の流行は終息しておりません。年間を通じ、期首に毎月臨時議会が開会されたことをはじめ9回の議会が招集されたことはまさに危機の最中であつた1年でした。所管である危機管理は、まさしく新型コロナウイルス感染症をはじめとする悪疫への防疫を担う所管委員会であり、安定した府民生活の充実のためいかに疫病対策が重要であるかまた改めて実感する1年となりました。また、建設交通に関してもコロナ禍の中で生活様式など様々な状況の変化の中で府民生活の基盤を維持するための取組や将来の京都府をつくる取組に対して真摯に向き合っている行政職員の皆様の御労苦を感じました。

私は、行政の第一の仕事は住民の安心・安全を守ることであると認識して活動を行っています。本年度の危機管理・建設交通常任委員会では藤山委員長も「防災力」に力点を置いて委員会のテーマ設定を行っていただき、大変に嬉しく感じております。

現在はコロナ禍の中にありますが、コロナ対策だけに捉われるわけにはいきません。

近い将来に必ず発生すると言われている南海・東南海沖トラフ地震、気候の変動が原因によると言われている豪雨災害、また豪雪災害など、コロナ＋Xの複合災害を想定して府民の安心・安全を守ることが肝要であると考えております。そのためにも、府民の命を守る行動を促すようなソフト対策と同様に命を守ることができるハード整備が必要になります。今後の本府の取組に大きな期待を寄せます。

管内視察においては、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座と舞鶴工業専門学校社会基盤メンテナンス教育センターで同じインフラ長寿命化に向けての研究であっても、視点の違いにより取組が全く異なってくることに大変面白みを覚えました。京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座では物流の大動脈である高速道路等大きな予算を預かる中で必ず保全が必要なインフラ耐久について研究しているのに対して、舞鶴工業専門学校社会基盤メンテナンス教育センターでは場合によっては廃止を含めて様々な可能性のあるインフラ施設を府民の利便性の向上の観点から可能な限りの延命を行う研究に関して学びを得ました。多くのインフラ施設が築50年を迎え、今後の府民生活のためにも対策の重要性について認識を新たにしました。

新名神高速道路並びに山陰近畿自動車道の視察では、上述と同様に大動脈の建設と地方道の建設という対照的な取組について大きな興味を抱きました。新名神高速道路の建設に際して用いられている新しい技法は、単純であるけれども高い技術を要することに強い関心を寄せました。山陰近畿自動車道では山陰地域の活性化のために求められている道路であることを認識しました。日本海側の国土軸形成のためにも早期に山陰自動車道の完成を求めていきたいと思っております。

消防学校では、コロナ禍における消防学校の教育・訓練の取組状況について視察しましたが、いかなる状況においても対応が求められる行政サービスとして隊員の健康確保と訓練の質向上が両立できるように苦勞されていることが手に取るように伝わってきました。

最後になりましたが藤山委員長、宮下第一副委員長、委員の皆様、並びに理事者の皆様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

本年度の経験を生かして、より一層の府政推進に向けて尽力することをお誓い申し上げて、委員会まとめといたします。ありがとうございました。

○前波委員

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策に御尽力をいただいた1年であったと思います。令和2年1月30日に府内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されて以来、度重なる緊急事態措置が実施され、府民の生活や京都府内の大多数を占める中小企業に多大な影響がありました。京都府の対策や支援に感謝する声がある一方で、生活が苦しいとの府民の声も聞いております。現在、感染者数については、ピーク時から比較すると減っていますが、まだまだ多くの感染者が確認されており、予断を許さない状況であります。そのような状況下において、感染防止対策と社会経済活動のバランスに苦慮されながら、大変難しいかじ取りをされている理事者の皆様に心から感謝をいたします。新型コロナから府民の命と健康を守りながら、暮らしと経済を立て直すことは大

変重要でありますので、府民に寄り添った取組を求めるものであります。

近年、自然災害は激甚化・頻発化しています。そのような状況下において令和5年の稼働に向けて自然災害や大規模事故等のあらゆる危機事象に迅速・的確に対応し、国等の応援態勢にも対応できる常設の危機管理センターの整備が進められています。この危機管理センターには、事態に応じた的確な意思決定するために気象情報や災害情報などを一元的に集約する新たな総合防災情報システムが整備され、さらに京都大学と開発を進められている水位・氾濫予測システムを活用して、きめ細やかな避難情報の提供が可能になるとお聞きしており、危機管理体制の強化につながる危機管理センターについては大変期待しております。危機管理センターのハードの整備に合わせて、その運用を担う人材育成にも努めていただきたいと思います。

また、コロナ禍の状況下においても、京都府の発展のためにはインフラの整備を進めることは大変重要であります、とりわけ京都府南部で進められている新名神高速道路の整備は、今後の京都府の発展のために重要な取組であります。高速道路網は、ヒト・モノの交流圏を広げ、経済活動を活発化させるものであり、早期の供用開始を願うものです。また、新名神高速道路の整備効果を府内全域に行き渡せる施策の展開を期待いたします。

最後に、藤山委員長、宮下、堤両副委員長には、円滑な委員会運営に御尽力いただき、感謝いたします。また理事者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の対応で大変な状況で、府民の安心・安全につながる危機対応の体制整備や河川、道路や港湾の強靱化に取り組んでいただいたことに感謝いたしますとともに、一層の取組をお願いいたしまして、まとめいたします。

○井上委員

藤山委員長をはじめ宮下・堤両副委員長、理事者の皆様には1年間お世話になりありがとうございました。コロナ禍で制限された委員会活動でありましたが専門的な立場から、参考人招致をして意見を伺うことができ、これまでより一層専門的な知識を得た次第であります。危機管理部と建設交通部とは災害時には表裏一体のものがああり、どの分野においても、我々は日頃から有事の際の備えは心しておく重要課題であります。これから梅雨の季節を迎え局地的集中豪雨で日頃は枯れた農業用水路又は排水路等に流れる濁流は予測できない危険が潜んでおり地域の避難計画作成にあたっては、参考人の京都大学防災研究所の佐山先生による中小河川の短時間で水位上昇する状況を聴取しました。その内容を十分認識して災害が激甚する今日、地域の組織力に生かすことはこれからの課題であります。

私は想像もしていなかった脊柱管狭窄症になり令和4年1月13日に福知山市民病院において手術をいたしました。手術後の経過は順調に回復をして現在に至っておりますが、入院をして身をもってその時に感じたことは、医師に不足を持つ患者が夜中に大声で騒ぎ看護師さん達の制止も聞かず廊下で暴れている様子をベッドでジーと聞いておりました、看護師さん達の「やめてください」「痛いー」など悲鳴に近い声が聞こえる度に仲裁に入ろうかとも思いましたが、逆恨みを受ければ大阪で発生した病院放火殺人事件のようになると大変と思ひ明け方まで寝ることができず過ごした経験から鑑みれば、病棟や各病室の出入りは誰でも簡単にできますので暴漢などの侵入防止また患者によ

る暴力行為等の対策が入院中の弱い人々の集合場所には、より一層の「危機管理体制」が必要ではないかと痛感した次第であります。

また、管内視察で新名神高速道路の整備状況や山陰近畿自動車道の進捗状況の現場を伺いました。道路がこれから地域間の経済発展や文化交流等のかけ橋として大きく貢献することは確かであります。脈々と工事が進行している二つの自動車道の工事を目のあたりにして長年にわたり先人の方々の御尽力とその熱意が伝わってくるのと同時に完成時の未来構図が浮かんできました。危機管理が提唱されるようになったのは第二次世界大戦が終結した後の核時代からの事態とされています。今まさにロシアによるウクライナ侵攻後、核兵器使用に対する懸念が強まっておりますが絶対あってはならないこの戦争が1日も早い終戦を迎えますことを心から念願をして1年間のまとめといたします。

○兎本委員

藤山委員長、宮下、堤 両副委員長をはじめ、委員の皆様におかれましては、委員会審査、委員会活動、管内調査等においてお世話になり、ありがとうございました。

また、番場危機管理監、壺内危機管理部長、濱田建設交通部長をはじめ、理事者の皆様方におかれましては、この間、委員会活動全般にわたり、格別の御協力をいただき、ありがとうございました。また、議会事務局の皆様も委員会運営に御協力いただきありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

近年、豪雨災害が頻発・激甚化しており、京都府においても豪雨災害に備えて、府民が早期に安全な避難行動をとる必要があり、防災、原子力防災対策等を考慮した危機管理・建設交通常任委員会でもあり、学ぶことが多く、持続可能な社会づくりに貢献できるように、今後、益々取り組んでいかなければならないと思いました。

また、多発する災害に対応できる住民の避難行動についても、再度、考え直さなければならぬ事が重要課題と思われ、各河川、各橋梁、道路網、鉄道網等を含め、二次交通といったインフラ整備、生活に必要なパイプラインのインフラ整備等の必要性を感じました。

また、コロナウイルス感染拡大防止に、危機管理部の担当部としての役割も大いに関係し、その重要性はますます高くなると思ひますし、まだまだ委員会での議論をしていかなければならないと思ひます。

また、まだまだ調査すべき課題は残っておりますが、理事者の皆様方におかれましては、本委員会において、各委員から出された御意見・御要望について、積極的に御検討いただき、今後の府政運営に向けた取組の推進のため、より一層の御尽力をお願いいたします。

最後に、皆様方におかれましては、御健康に留意され、今後益々の御活躍されることを祈念いたしまして、私のまとめとさせていただきます。

ありがとうございました。

○田島委員

まずもって藤山委員長、宮下副委員長、堤副委員長をはじめ、委員の皆様、そして理

事者の皆様、そして事務局の皆様には、大変お世話になり、ありがとうございました。

危機管理・建設交通常任委員会の委員としてこれまで活動をしてまいり、所管事項に係る京都府の取組への理解が大変深まったと実感をしています。

特にコロナ禍での取組において、危機管理行政は府民のいのちと暮らしを守る上で非常に重要な役割を果たされており、その御尽力に心より敬意を表する次第であります。

この1年のほとんどが新型コロナウイルス感染症の蔓延による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されており、本委員会での管外調査は実施できる状況になかった中で、管内調査については何とか実施していただき、西京区の京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座や舞鶴市の舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センターにてインフラ整備に係る取組や城陽市の新名神高速道路や宮津市と京丹後市での山陰近畿自動車道の整備状況とコロナ禍における京都府立消防学校での取組について学ぶことができました。

また、京都大学防災研究所の佐山敬洋准教授より、度重なる自然災害への防災対策や取組を進めるための早期洪水予測に関する最近の動向について。そして、関西大学社会安全学部の永田尚三教授より地域防災力のさらなる向上に向けた取組について参考人としてそれぞれお招きし、ハードとソフト両面の防災対策について学ぶことができました。

コロナ禍で自然災害が発生した場合を考えると非常に困難な対応を迫られると考えられます。あらゆることを想定した中で、避難所の設置や運営を行わなければならないし、車中避難をする避難者も多くなると思われるのでそのスペースの確保も大事です。また、人員や必要物資など市町村との連携もこれまで以上にとる必要があると思われまます。また、防災のためのインフラ整備も重要であり、その点についても限られた予算の中で最大限に効果を発現させながら、京都府には府民のいのちと暮らしを守り抜く取組を今後も進めていただきたいと思います。

そして、京都府南部地域の発展に欠かせないのが早期の新名神高速道路の全線供用開始であり、NEXCO西日本としっかり連携をする中で、周辺のインフラ整備も遅れないようにする必要があります。そして、京都府北部地域では山陰近畿自動車道の全線開通の期待が高まる中、遺跡が発掘され工期が延びるなど課題も山積しています。

インフラ整備が進めばその地域のまちづくりは間違いなく進んでまいりますので、滞ることのないようお願いしたいと思います。

いずれにいたしましても、今後も府政の発展のためにしっかりと頑張ってまいりたいと思っておりますので、今後とも、皆様方の御協力、御指導をお願い申し上げまして、私からのまとめの報告とさせていただきます。1年間、お世話になりありがとうございました。

○浜田委員

私は、危機管理・建設交通常任委員会は初めてということもあり、この1年間、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。1年間で、私が質問で取り上げた問題について、まとめました。

まず、危機管理部の所管事項についてです。

今年度は、運転から40年を超える老朽原発である高浜1号機・2号機、美浜3号機の再稼働の是非をめぐる動きがありましたが、京都府は、老朽原発の再稼働への態度を明確にしませんでした。私は、老朽原発の再稼働は許さないという立場で、繰り返し、京都府の姿勢を正しました。

万が一、原発事故が起こった際の避難路整備については、この間、東北地方や関東地方で相次いで震度5強の地震も起こっており、いつ原発の過酷事故が起こるかもしれないという状況の下で、一刻を争って進めることを求めました。

また、原発事故時の新型コロナウイルス感染症を踏まえた広域避難先の避難所については、共用スペースも含めて確保を急ぐことを求めました。

消防力の充実強化をめぐる、今年度は、京都府消防体制の整備推進計画の改訂版が出されました。私は、改定版には常備消防の充実強化という課題がすっぽりなくなって、まさに広域化推進計画になっているということを指摘し、消防の広域化ではなく、常備消防力の具体的な強化こそが、緊急に求められていることを強調しました。

そして、京都府が進めようとしている消防指令センターの共同化については、すでに共同運用している自治体では、「管轄外の地理に疎く目標物がない山林などでは指令までに時間がかかる、各消防の出勤、人員体制も違うので、意思決定が遅れ、迅速な応援体制が取れない」などと報告されていることも紹介して、見直すことを求めました。

次に、建設交通部の所管事項についてです。

今年度は、JR西日本が、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って乗客が激減したことを理由に、在来線を大幅に減便するという事態が起こりました。この問題では、京都府議会も昨年の6月議会で「京都府域の活性化に向けた地域鉄道の維持・充実を求める決議」を全会一致で議決し、その後、京都府も関西広域連合もJR西日本へ申入れを行いました。JR西日本は、昨年10月と今年3月のダイヤ改正で、JR京都線・大和路線・山陰線の減便が行われました。

JR西日本はさらに、不採算のローカル線の廃線の検討も始めています。一方で、どれだけの建設費がかかるか分からない、ムダと環境破壊の北陸新幹線延伸計画を進めながら、財政悪化を理由に、在来線の減便や廃線を強行しようとするJR西日本に対して、京都府として、住民の生活にとって欠かせない在来線を守る立場で働きかけることが必要です。

今年度は、地域公共交通形成計画の改定に向けての議論も行われました。改定の方向性として、これまでの施策の効果検証と新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、地域にとって望ましい交通手段や利用しやすい環境の改善など、鉄道の利用拡大を目指すというふうになりました。在来線の減便というのは鉄道の利用拡大に逆行して、鉄道離れを加速するということにもなりかねないと指摘しました。

○水谷委員

1年間、正副委員長、各委員、理事者、そして議会事務局の方々には、大変お世話になりました。

コロナ禍のもとで5波、6波の最中の1年間でしたが、危機管理・建設交通常任委員会委員として、コロナ対策をはじめ、府民の安心・安全のための論議を行い、府民の立

場で府政をチェックし、府民の声を府政に届ける仕事をさせていただくことができました。

コロナ感染が拡大し、変異株への置き換わりが進む中で、医療機関が逼迫して自宅療養者が急増し、高齢者施設での留置が多数起こり、次の感染拡大に備えて、その対応を強めることが急務です。また救急搬送困難事案が急増しましたが、抜本的な対策強化が必要です。

「極端気象」のもとで災害が多発しており、河川整備費の大幅増額、技術職員の増員など現場の体制を強化していただきたいと思います。

国は、無駄で危険な大戸川ダム推進をはじめとした淀川水系河川整備計画見直しに基づき宇治川、桂川、木津川により多くの洪水を流下させようとしています。逆に「ゆっくり流す」河川政策への転換が必要です。また多くの府管理河川での流域治水計画の整備が急がれます。ダムの利水枠を活用した事前放流へ操作見直しや堤防強化、森のダム、田んぼダム、遊水地の推進、さらに避難対策強化など、真の「流域治水」への転換こそ進めるべきです。

本府が実施した避難所実態調査によれば、想定避難者数337,411人に対し、洪水浸水時に収容可能な人数の割合は府全体で74%であり、宇治市35%、城陽市26%、井手町32%であるなどの避難所不足の実態が明らかになっていますが、これは浸水想定区域内の避難所が多く、十分な避難所が確保できておらず、市町村を支援し避難所を充実させることが急務と言えます。コロナ禍と水害、地震のダブル災害は起こり得ることとして対策強化が急務です。

新名神開通に合わせ、物流拠点開発、アウトレット、木津川運動公園拡張など城陽市東部丘陵開発が加速され、多額の事業費が投じられようとしており、また、大企業所有地の開発要求に応じて、けいはんな学研都市の開発が進められています。これら大型開発に対する地元自治体の負担、交通渋滞悪化、下流の水害など大きな課題があり、こうした大型開発は一旦立ち止まって見直すべきです。

本府は舞鶴港国際埠頭2期工事を推進していますが、地元発展・経済への効果を十分検証し計画の是正を求めます。

高浜、美浜の老朽原発再稼働について、西脇知事は容認姿勢ですが、避難方法も担保できておらず再稼働すべきではありませんし、本府が反対すべきことを求めます。

最後に、北陸新幹線など不要事業を見直し、コロナ感染から府民の暮らしと命を守る対策へ、本府が全力を上げて取り組まれるよう求めてまとめとします。

○平井委員

まずは、藤山委員長、宮下副委員長、堤副委員長、各委員、事務局、理事者の皆さんには1年間委員会運営をいただきありがとうございました。

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症に関する議論と府政の重要課題についての議論は主でありました。

重要課題の調査としての参考人として、①早期洪水予測に関する最近の動向について、京都大学防災研究所の佐山敬洋准教授から、近年の豪雨災害に備えて府民の避難行動確保の重要性を議論しました。②地域防災力のさらなる向上について、関西大学社会安全

学部の永田尚三教授から、災害が激甚化するなか地域防災力の向上、消防団員の確保などについて議論しました。

管内調査は、①京都大学大学院工学研究科において次世代インフラ整備システムについて調査しました。京都大学では、高度経済成長期に建設された道路などのインフラ構造物の耐用年数更新時期を迎える中で、最新技術の検査システムを活用してコンクリート検査によって劣化防止や適切な管理についての研究をされていました。

②新名神高速道路の整備状況として城陽市の工事現場において、新名神高速道路開通後の人流・物流構想などについて調査しました。

③府立消防学校の訓練・教育について調査しました。京都市消防学校と府立消防学校の共同運用することで、最新設備を活用し府内の各消防本部職員の教育訓練に取り組まれています。また、南部拠点（八幡市）、北部拠点（福知山市）でも消防職員に加えて、消防団員の訓練なども実施されていました。

④国立舞鶴工業高等専門学校において、インフラメンテナンスの人材育成として、社会基盤メンテナンス教育センターを立ち上げ、産官学機関が連携して教育プログラムの実証実験に取り組まれています。舞鶴高専では、インフラメンテナンス技術者育成のため、市民協働型インフラ管理体制の構築、建築系高専生のキャリア教育にもつながっていました。

また、議会開会中の常任委員会では、付託議案に加えて新型コロナウイルス感染症対策についても議論しました。今期中には、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言などが発令されることになり、所管の危機管理体制及び飲食店等の時間短縮営業要請などについても多くの議論をしました。特に飲食店等の営業時間短縮内容の周知、協力金の支給方法など多くの課題や問題点について議論しました。

今後は、今回学んだ調査事項を京都府政の推進に取り組んでまいります。

○村井委員

コロナ禍克服のための補正予算の審査において、委員として最大に努力を尽くした。効果が十分発揮されていると信じている。

危機管理として、複合災害の発生を現実として捉える必要が大きくなった。全てを同時にできないが、地域ごとに、例えば台風による強風と地震、洪水と地震など地域の特徴を踏まえて行動計画の作成を急がりたい。

原子力の安全性については、専門性の高い分野であるが、できるだけ理解しやすい事例を示し、その安全性の尺度を我々なりに共有する努力が必要と考える。例えば、圧力容器の材質をJIS規格で捉えようとしたのも、私なりの試みである。今後においても材質、溶接の技術の耐久性などからも、世界が進めようとしている小型モジュール原発への理解を深めながら、環境に良いエネルギーのさらなる導入に、具体策をもって臨んでほしい。

天ヶ瀬ダムの再開発の完成と大戸川ダムの建設決定は、安心・安全の観点から重要性は大きい。府の負担金も全体の3分の1程度が発生するが、その事業効果は大きく京都府南部の発展に今後大きく寄与する。流域治水が全国で言われているが、その先駆を行くのが三川合流部を持つ、淀川水系であると思う。早期に完成させ、都市発展のモデル

にしてほしい。また本川の整備に伴い、古川を始めとする内水と言われる派川の整備もさらに進めていただきたい。

公共交通の在り方は大変に難しいと考える。必要性はあるものの、なかなか活性化に結びついてこない。特に関西本線については、本府だけでなく、三重県、大阪府の力を結集しなければならない。例えば、月ヶ瀬駅の隣の島ヶ原駅は三重県であることから、府県を超えて活性化策が必要である。JR西日本を軸にまちづくりの視点で、それぞれの知恵を結集して、路線の維持発展を望んでおきたい。

結びに、制約があり工夫が必要な1年間の委員会であったが、意見は言い尽くせたものと振り返る。これも委員長、副委員長による円滑な委員会運営によるものと、また各委員の貴重な御意見によるものと、感謝申し上げる。